

ワークダイバシティを目指した 岐阜市における「超短時間雇用 モデル」の実践 ～介護現場を支える人材の創出から～

- 大原真須美（岐阜市超短時間ワーク応援センター）
- 森悠弥（メディカル・ケア・サービス株式会社）
内藤昌弘（岐阜市超短時間ワーク応援センター）

岐阜市の紹介

- 岐阜県の県庁所在地（中核市）
- 人口約40万人
- 自然にあふれた街／清流長良川・金華山
- 歴史ある街／長良川鶉飼・岐阜城
- 繊維業で発展した街／繊維・衣服等卸売業、繊維業などで従業者比率が高かったが、現在は減少傾向。約99%が中小企業で第三次産業の割合が圧倒的に多く、特にサービス業、飲食業が多い。
- ワークダイバシティ／多様で柔軟な働き方をつくる取り組み



「超短時間雇用」とは？

東京大学先端科学技術研究センター近藤武夫教授が提唱している雇用モデル

障がいや疾患などある人々が、週に最短15分から、一般の企業・職場で、特定の職務を担当して働くワークスタイル

* 岐阜市では、「岐阜市超短時間ワーク応援センター」を設置し、企業・求職者の中間的支援を行っています。

超短時間雇用成功の6つの要件

- ① 採用前に、職務内容を明確に定義しておく
- ② 定義された特定の職務で、超短時間から働く
- ③ 職務遂行に本質的に必要なこと以外は求めない
- ④ 同じ職場でともに働く
- ⑤ 超短時間雇用を創出する地域システムがある
- ⑥ 積算型雇用率を独自に算出する

岐阜市超短時間雇用創出事業

「超短時間ワーク応援センター」開所（R4.4～）

企業へ 仕事の切り出しから雇用・職場継続の支援

求職者へ 労働条件の整理・求人検討・

職場見学や体験・応募などをサポート

求職対象者（*岐阜市在住）

- 障がい者やその疑いがある人（障がい福祉サービスの就労系サービスを利用していない人）
- 難病の人
- 生活困窮者で、岐阜市生活・就労サポートセンターを利用し対象と判断された人

* 年齢、手帳の有無は問わない

→ 求職希望者は、超短時間ワーク応援センターへ登録

グループホーム愛の家での「超短時間雇用」

雇用までの流れ

- 2022年 3月 理念共有・職務定義 実施
- 4月 求職者見学、応募
- 5月 雇用開始
- 8月 ワーカーの体調不良により離職
- 12月 求職者2名見学
- 2023年 1月 体験（2名）
- 2月 応募
- 3月 雇用開始（2名）

職務：洗濯物を干す、たたむ、昼食後の食器洗い、手すりやゆかの消毒

日時：週2日、12:00～14:00

	年代	性別	属性
B氏	50代	男性	精神科通院歴有 (手帳無)
C氏	20代	男性	知的障がい (手帳有)
D氏	20代	男性	精神科通院中 (手帳無)

A solid dark blue horizontal bar is positioned on the left side of the slide, partially overlapping the text area.

メディカル・ケア・サービス株式会社
愛の家グループホーム中西郷での実践報告

メディカル・ケア・サービス
愛の家グループホーム
での超短時間雇用の取り組み

1. 市内介護現場の状況について
2. 愛の家グループホームでの実践例
3. 効果検証
4. 考察

1. 岐阜市内介護現場の状況

有効求人倍率状況		
全国平均	全職種	1.32
	介護職関連	3.44
岐阜県	全職種	1.58
	介護職関連	5.70
岐阜市	全職種	1.70
	介護職関連	5.27

- ・ 介護人材の確保が非常に困難な状況
全職種に比べ、3～4倍の有効求人倍率全国47都道府県で毎月TOP5に入る程高い
- ・ 現場の負担増加によるケア品質の低下が懸念されている。

○その他採用困難な要因

- ・ 愛知県への人材流出 岐阜駅～名古屋まで20分 平均賃金の高い愛知県へ人材が流出している
- ・ 岐阜県→愛知県への通勤・通学者約10万9千人 愛知県から岐阜県内へは4万5千人と6万4千人の差

→介護現場での人員不足解消が急務（介護労働力の確保）

1. 市内介護現場の状況

介護現場（認知症グループホーム）での業務は**直接的にご利用者に関わる業務**と**その他の業務**で成り立っている

- ・ **介護業務**

食事介助 排泄介助 入浴介助 服薬介助 散歩付き添い 就寝介助

※要介護度や認知症の症状により介助が必要な頻度、時間に差は生じるが、最低限行動の把握や見守りが必要

- ・ **間接業務**

炊事 洗濯 掃除 その他事務処理や記録作成等。さらにコロナ発生後は消毒業務等が増加している。

ご利用者と一緒に実施出来る部分も有るが、基本的にスタッフが行う必要がある介護以外の業務 → **超短時間雇用の創出が可能**

2. 愛の家グループホームの紹介

愛の家グループホームはメディカル・ケア・サービスが運営する認知症高齢者の入居する小規模の介護施設となります。

岐阜市内の愛の家グループホームでは約10年前の2013年より清掃職員として、障がい者雇用を継続。岐阜市内の6ホームでは離職率は0%と雇用を継続してきました。会社としてダブルマテリアリティの考えを基に、障がい者に対しての雇用の創出と介護現場の品質向上を目的に取り組みを継続しています。

2. 愛の家グループホームでの実践例

① 間接業務の洗い出し

直接ご利用者に関わる業務とそれ以外の業務を精査し細分化 依頼する業務を切り出した

② 業務内容と対象者のマッチング

依頼したい間接業務の内容にマッチする対象者の相談

③ 業務指導と実践

実際の現場業務の指導と実践

2. 愛の家グループホームでの実践例

	ご利用者の生活	早勤	通常	夜勤
4:00				巡回
5:00		[夜勤者より申し送り]		起床介助・口腔ケア [早勤へ申し送り]
7:00	起床・朝食	起床介助・口腔ケア		朝食介助・服薬介助
8:00		掃除(浴室・廊下)		
9:00			[早勤者より申し送り]	
10:00	おやつ	水分補給	バイタルチェック・水分補給	
11:00		粗当居室整理・布団干し 昼食介助・服薬介助	昼食準備(30分〜) [利用者様への配膳] 昼食介助・服薬介助	
12:00	昼食	(30分間休憩)	昼食 後片付け	
13:00	[かかりつけ医往診・口腔ケア] 入浴	入浴介助(13時30分〜)	(30分間休憩)	
14:00	(訪問看護)			
15:00	おやつ	浴室掃除・洗濯後洗い	水分補給 翌日分・配薬準備	夕飯
16:00	(訪問マッサージ)		[夜勤者へ申し送り] [30分間休憩] 洗濯夕飯準備(17時〜)	[夜勤より申し送り]
17:00			[利用者様への配膳] 夕食介助・服薬介助	
18:00	夕食		夕食 後片付け 就寝介助	

- ・青色部分の間接業務について依頼
(介護以外の業務)

- ・コロナの発生で増加した手すりや床の消毒業務等も依頼→間接業務の増加による品質低下の防止

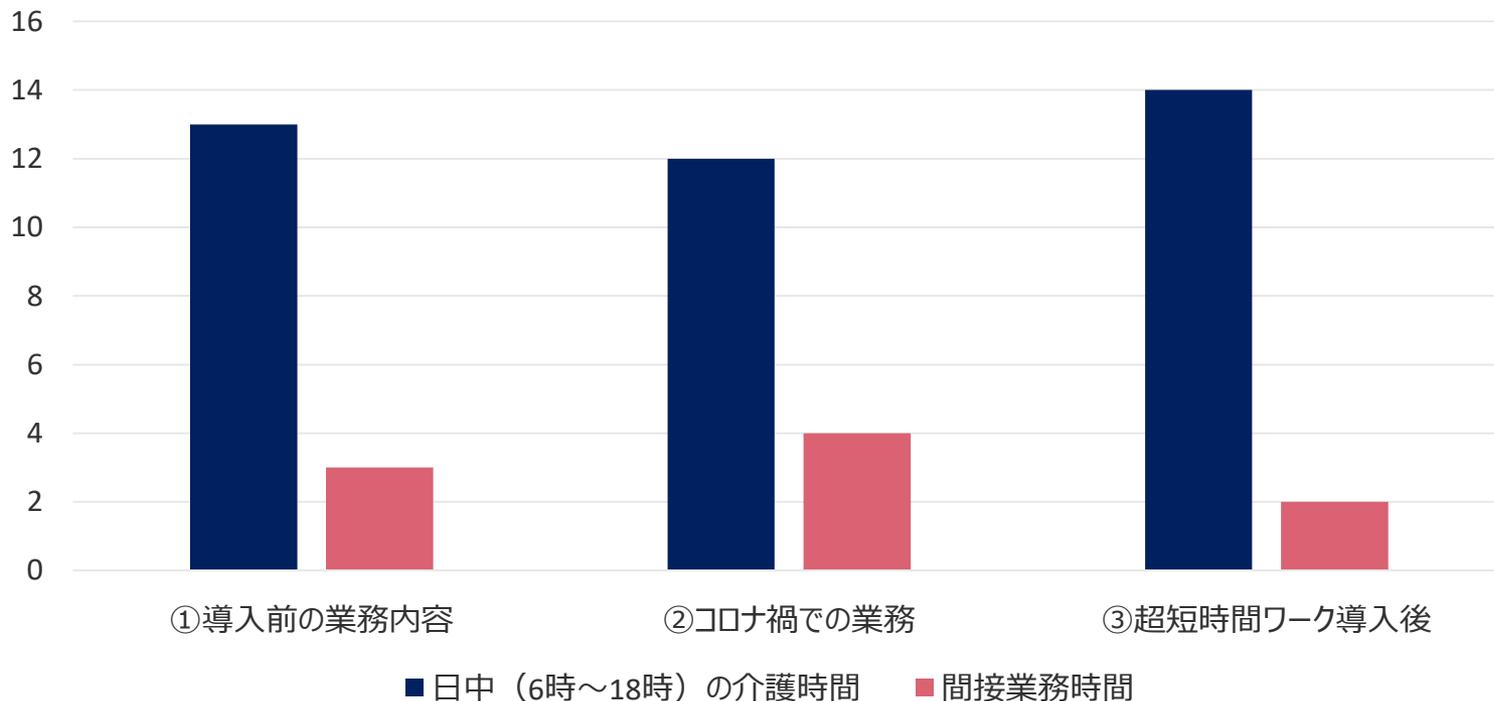
- ・依頼した部分に関して介護の時間(散歩、個別ケア、研修等)に割当

2. 愛の家グループホームでの実践例（基本業務）

- ・ 廊下掃除 : 12時～12時30分 (約20分)
- ・ 手すり拭き : 12時30分～12時40分 (約10分)
- ・ 風呂掃除 : 12時40分～13時 (約20分～30分)
- ・ 洗い物 : 13時～13時30分 (約30分～40分程度)

3. 効果検証

介護業務・間接業務時間数



- ②コロナ禍で増加した消毒作業により介護業務にかかる時間が減少
- ③超短時間ワークの導入により、間接業務にかかる時間数が減少した事により、介護に使える時間数が増加→品質の向上

まとめ

- 「助かる」人材としてともに働けること
 - 「障がい者を雇用する」ことが優先でない。
 - 就労者の力が最大限生かされる仕事につながる
 - 職務の切り出し、マッチングの重要性
- 期待されること
 - 介護現場での雇用拡大
 - 他の職域での実践へ展開